１９　高司５丁目地区地区計画

平成15年12月5日決定

◆地区の概要

名　　称	高司５丁目地区地区計画
位　　置	宝塚市高司５丁目の一部
区　　域	計画図表示のとおり
面　　積	約１．９ｈａ

◆区域の整備、開発及び保全に関する方針

地区計画の目標	当地区は、長年製造工場の敷地として利用されてきたが、社会情勢及び経済情勢が急激に変化していく中で、近年住宅団地として土地利用が図られることとなった。 たからづか都市計画マスタープランにおいては複合利用ゾーンに位置付けており、住・工・スポーツ・リゾート機能などの複合型の土地利用を進めることとしていることから、この住宅団地の開発事業の施行による事業効果の維持・増進を図り、良好な住環境を形成することを目標とする。
土地利用の方針	近隣住宅地との環境調和を図り、一戸建住宅地として良好な住環境の形成を図る。
建築物等の整備の方針	ゆとりとうるおいのある一戸建住宅地を形成するため、建築物の用途、建築物の高さ、敷地の最低面積等に係る制限を行い、良好なまち並みの形成を図る。

◆地区整備計画

地区整備計画を定める区域		計画図表示のとおり
地区整備計画の区域面積		約１．９ｈａ
建築物等に関する事項	建築物等の用途の制限	次に掲げる建築物以外の建築物は、建築してはならない。 （１）戸建専用住宅 （２）戸建住宅で、延べ面積の２分の１以上を居住の用に供し、かつ、別表第１に掲げる用途を兼ねるもの（これらの用途に供する部分の床面積の合計が５０㎡を超えるものを除く。） （３）診療所（患者の収容施設を有するものを除く。） （４）近隣に居住する者の社会教育的な活動又は自治活動の目的の用に供する公民館、集会場その他これらに類するもの （５）別表第２に掲げる公益上必要な建築物 （６）前各号の建築物に附属するもの（別表第３に掲げるものを除く。）
	建築物の敷地面積の最低限度	１００㎡
	建築物等の高さの最高限度	地盤面から建築物の最高部までの高さの最高限度は、１０ｍとする。
	建築物等の形態又は意匠の制限	建築物の屋根及び外壁の色彩又は意匠は、周辺環境と調和した落ち着きのあるものとする。
	垣又はさくの構造の制限	道路に面する垣又はさくの構造は、周辺環境と調和したものとする。

別表第１

（地区整備計画区域内に建築することができる兼用住宅）

１　事務所（汚物運搬用自動車、危険物運搬用自動車その他これらに類する自動車で国土交通大臣の指定するもののための駐車施設を同一敷地内に設けて業務を運営するものを除く。）

２　日用品の販売を主たる目的とする店舗又は食堂若しくは喫茶店

３　理髪店、美容院、クリーニング取次店、質屋、貸衣装屋、貸本屋その他これらに類するサービス業を営む店舗

４　洋服店、畳屋、建具屋、自転車店、家庭電気器具店その他これらに類するサービス業を営む店舗（原動機を使用する場合にあっては、その出力の合計が０．７５ｋｗ以下のものに限る。）

５　自家販売のために食品製造業（食品加工業を含む。）を営むパン屋、米屋、豆腐屋、菓子屋その他これらに類するもの（原動機を使用する場合にあっては、その出力の合計が０．７５ｋｗ以下のものに限る。）

６　学習塾、華道教室、囲碁教室その他これらに類する施設

７　美術品又は工芸品を製作するためのアトリエ又は工房（原動機を使用する場合にあっては、その出力の合計が０．７５ｋｗ以下のものに限る。）

別表第２

（地区整備計画区域内に建築することができる公益上必要な建築物）

１　巡査派出所

２　公衆電話所

３　郵便局で延べ面積が　５００㎡以内のもの

４　地方公共団体の支庁又は支所の用に供する建築物、老人福祉センター、児童厚生施設その他これらに類するもので延べ面積が６００㎡以内のもの

５　近隣に居住する者の利用に供する公園に設けられる公衆便所又は休憩所

６　路線バスの停留所の上家

７　次の（１）から（７）までの一に掲げる施設である建築物

（１）第１種電気通信事業者がその事業の用に供する次のイ及びロに掲げる施設である建築物で執務の用に供する部分の床面積の合計が７００㎡以内のもの

イ　電気通信交換所　　ロ　電報業務取扱所

（２）電気事業の用に供する次のイ及びロに掲げる施設である建築物

イ　開閉所

ロ　変電所(電圧１７０，０００ﾎﾞﾙﾄ未満で、かつ、容量９００，０００ｷﾛﾎﾞﾙﾄｱﾝﾍﾟｱ未満のものに限る。)

（３）ガス事業の用に供する次のイからハまでに掲げる施設である建築物

イ　バルブステーション　　ロ　ガバナーステーション

ハ　特定ガス発生設備（液化ガスの貯蔵量又は処理量が３．５トン以下のものに限る。）

（４）液化石油ガス販売事業の用に供する供給設備である建築物（液化石油ガスの貯蔵量又は処理量が３．５トン以下のものに限る。）

（５）水道事業の用に供するポンプ施設（給水能力が毎分６立方ﾒｰﾄﾙ以下のものに限る。）である建築物

（６）公共下水道の用に供する次のイ及びロに掲げる施設である建築物

イ　合流式のポンプ施設（排水能力が毎秒　２．５立方ﾒｰﾄﾙ以下のものに限る。）

ロ　分流式のポンプ施設（排水能力が毎秒１立方ﾒｰﾄﾙ以下のものに限る。）

（７）都市高速鉄道の用に供する次のイからハまでに掲げる施設である建築物（イに掲げる施設である建築物にあっては、執務の用に供する部分の床面積の合計が２００㎡以内のものに限る。）

イ　停車場又は停留場　　ロ　開閉所

ハ　変電所(電圧１２０，０００ﾎﾞﾙﾄ未満で、かつ、容量４０，０００ｷﾛﾎﾞﾙﾄｱﾝﾍﾟｱ未満のものに限る。)

別表第３

（地区整備計画区域内に建築してはならない附属建築物）

１　自動車車庫で当該自動車車庫の床面積の合計に同一敷地内にある建築物に附属する自動車車庫の用途に供する工作物の築造面積(当該築造面積が５０㎡以下である場合には、その値を減じた値）を加えた値が６００㎡(同一敷地内にある建築物（自動車車庫の用途に供する部分を除く。）の延べ面積の合計が６００㎡以下の場合においては、当該延べ面積の合計）を超えるもの（次号に掲げるものを除く。）

２　公告対象区域内の建築物に附属する自動車車庫で次のイ又はロのいずれかに該当するもの

イ　自動車車庫の床面積の合計に同一敷地内にある建築物に附属する自動車車庫の用途に供する工作物の築造面積を加えた値が２，０００㎡を超えるもの

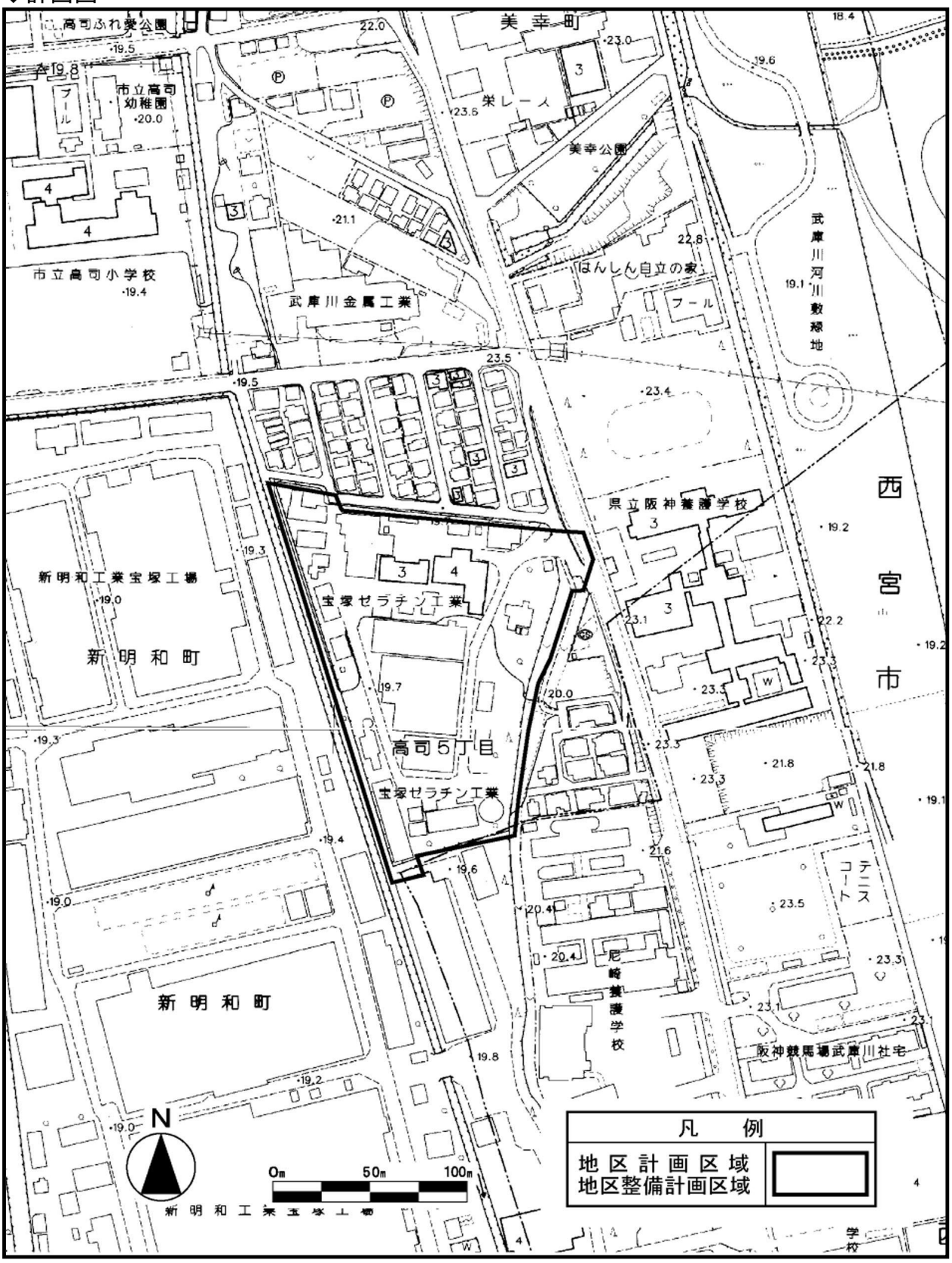
ロ　自動車車庫の床面積の合計に同一公告対象区域内にある建築物に附属する他の自動車車庫の床面積の合計及び当該公告対象区域内にある建築物に附属する自動車車庫の用途に供する工作物の築造面積を加えた値が、当該公告対象区域内の敷地ごとに前号の規定により算定される自動車車庫の床面積の合計の上限の値を合算した値を超えるもの

３　自動車車庫で２階以上の部分にあるもの

４　床面積の合計が１５㎡を超える畜舎

５　主として住居の環境を保護するため建築してはならない危険物の貯蔵又は処理に供する建築物（建築基準法（昭和２５年法律第２０１号）別表第２（と）項第４号に掲げるもの）

◆計画図


高司ふれあい公園
美幸町
市立高司幼稚園
プール
栄レース
美幸公園
市立高司小学校
武庫川金属工業
はんしん自立の家
プール
武庫川河川敷緑地
県立阪神養護学校
新明和工業宝塚工場
新明和町
宝塚ゼラチン工業
高司5丁目
宝塚ゼラチン工業
西宮市
テニスコート
尼崎養護学校
阪神競馬場武庫川社宅
新明和町
新明和工業宝塚工場
N
0m
50m
100m
凡例
地区計画区域
地区整備計画区域

平野部市街地地域の景観形成基準

景観形成基準**【建築物の建築等】**

<table>
<tr><td>屋根及び外壁の色彩</td><td>外壁、屋根など外観に使用する明度・彩度は、下表マンセル表色系による数値の範囲内とする。（無着色の木材、石材、漆喰、レンガ、ガラスなどを使用する部分及び各壁面の見付面積の４分の１以下の部分は除く）
<table>
<tr><td></td><td colspan="2">屋　根</td><td colspan="2">外　壁</td></tr>
<tr><td>色 相</td><td>明度
(以下)</td><td>彩度
(以下)</td><td>明度</td><td>彩度
(以下)</td></tr>
<tr><td>N</td><td>８程度</td><td></td><td rowspan="5">3～8.5</td><td></td></tr>
<tr><td>R</td><td rowspan="4">６程度</td><td>6</td><td>4 (*1)</td></tr>
<tr><td>YR</td><td>6</td><td>4 (*1)</td></tr>
<tr><td>Y</td><td>4</td><td>4</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>2</td><td>2</td></tr>
</table>
(*1)　第１種低層住居専用地域以外の地域は6まで緩和する</td></tr>
</table>

建築物の建築に係る景観形成基準の取り扱いについて

※宝塚市の景観形成基準における基本的な取り扱いを示しており、敷地状況等によってはこの限りではありません。
下記ケースに該当しない場合は担当者と協議を行ってください。

【対象となる建築物】

■ 対象となる建築物は、建築基準法第 2 条第 1 項に規定する建築物です。
※カーポートや駐輪場、物置等の小規模な建築物にも基準が適用されます。

屋根及び外壁の色彩

【色彩基準】

■ 対象範囲は、外壁部分及び屋根部分全てです。

■ 以下の部分についても基準の対象となりますので、マンセル値をご確認ください。

「外壁部分」に含まれるもの（一例）
- ・バルコニー腰壁
- ・ルーバー
- ・車庫のシャッター
- ・カーポートや駐輪場の柱

「屋根部分」に含まれるもの（一例）
- ・陸屋根
- ・太陽光パネル
- ・カーポートや駐輪場の屋根

【色彩基準の適用除外】

■ 木材やガラス、漆喰等の自然素材については、**無着色のもののみ適用除外**となります。

■ **木調のプリントは適用除外となりません**ので、マンセル値をご確認ください。

■ 見付面積の 1/4 以内となる部分の算定について

・見付面積の算定は**合算ではなく**、**各壁面それぞれで 1/4 以内となるようにしてください。**

・**ルーバー部分の見付面積は面として算定し**、部材間についてもルーバーがあるものと見　なします。

【大きな壁面を有する建築物について】

■ 「大きな壁面を有する建築物」とは、長辺約 31m・短辺約 10mを超えるものを目安とします。

【地区計画での基準について】

■ 建築物等の形態又は色彩その他意匠の制限等において「周辺環境に調和したもの」とは、景観計画における景観形成基準に準ずるものとします。

【届出書の提出に係る留意事項】

■ 立面図又はパース等に外壁部分及び屋根部分のマンセル値を全て記載してください。

■ 同一建築物において複数の色彩を採用する場合については、立面図等への着色又はハッチ等の記載によって、各色彩の着色範囲を明示してください。

敷地の緑化

【基準の優先順位について】

- ■ 各景観形成基準での記載の順によらず、緑視率の基準の適用を優先します。（市内一律）
- ■ 敷地形状等において緑視率の適用が困難であると認められる場合（旗竿地等）のみ、道路際の景観への配慮をした上で、緑被率（又は緑地率）の基準を適用します。

【道路に面する植栽について】

- ■ 対象となる道路は、建築基準法第 42 条第 1 項に規定する道路です。
- ■ 建築基準法第 43 条第 2 項第 2 号の規定による許可を受けている場合には、道路から計画敷地までの空地についても、原則対象となる道路とみなします。
- ■ 「道路に面して」とは、可能な限り道路際で植栽するものとし、原則道路から車 1 台分程度（約 5m）の範囲内のものを算定対象とします。

【緑視率の算定】

- ■ 対象となる道路及び算定対象となる植栽の範囲は、【道路に面する植栽について】に準ずるものとします。
- ■ 建築物の立面投影面積には、地上面より上にある基礎（及び深基礎）を含みます。
  道路より地盤レベルが下がっている場合でも、敷地内の地上面より上部については原則として面積に含むこととします。
- ■ 移動可能な鉢（プランター等）に植えられた植栽については算定対象外です。
- ■ 樹木等の前面に透過性のない塀などがある場合は、樹木等の高さの約 1/4 以上が道路から視認できるもののみを算定対象とします。
- ■ 一カ所に複数の樹木等が密に計画されている場合についても、樹木等の高さの約 1/4 以上が道路から視認できるもののみを算定対象とします。
  例）道路から見た際に縦並びに同じ高さの樹木等が計画されている場合においては、前方の樹木等のみが算定対象となり、後方の樹木等については算定対象外となります。
- ■ 敷地の形状や利用形態等により緑視率の確保が困難な場合については、個別で状況を確認した上で算定可能範囲を判断しますので、都市計画課と協議をお願いします。

【緑被率の算定】

- ■ 駐車場緑化ブロックは、実際の駐車スペース部分が算定可能な範囲となります。
- ■ 芝生については算定対象外です。
- ■ 花壇等の植栽スペースは、現実的に管理行為が可能となるような見切りや管理用通路を設けるものとし、実際に植栽可能な範囲のみを算定対象とします。

【緑地率の算定】

- ■ 主に花壇等の植栽スペースについての面積算定となるため、樹木別での面積算定は行いません。（緑視率及び緑被率の算定時とは異なります。）
- ■ 芝生及び植栽スペースについての取り扱いは、【緑被率の算定】に準ずるものとします。

【届出書の提出に係る留意事項】

- ■ 緑化の計画図には、樹木等の高さや植栽スペースの寸法等を明記してください。
- ■ 緑視率等の算定については、添付書類のいずれかに根拠となる計算式を記載してください。

垣又は柵の構造の制限（地区計画及び景観計画特定地区）

【植栽を併設した塀又はフェンスについて】

■ 「植栽を併設」とは、道路に面して中木（植栽時 2m以上）を 2 本以上植栽することとしています。

■ 対象となる道路及び算定対象となる植栽の範囲は、【道路に面する植栽について】に準ずるものとします。

■ 樹木等の前面に透過性のない塀などがある場合は、樹木等の高さの約 1/4 以上が道路から視認できるもののみを算定対象とします。

【「良好な住宅地の居住環境に調和したもの」について】

■ 「良好な住宅地の居住環境に調和したもの」とは、生垣または植栽を併設したへい又はフェンスとすることとしています。

■ 「植栽を併設」については、【植栽を併設した塀又はフェンスについて】に準ずるものとします。